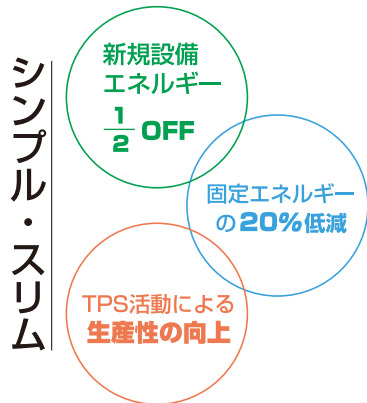


# 地球温暖化防止

地球温暖化防止のため、全社にわたり「2003年度を基準年度として、CO<sub>2</sub>排出量を2010年度末までに低減すること」を目標として取り組んでいます。

そのために、各工場持ち回りで省エネルギー連絡会を開催し、現場点検を含め全員参加の活動を展開しています。

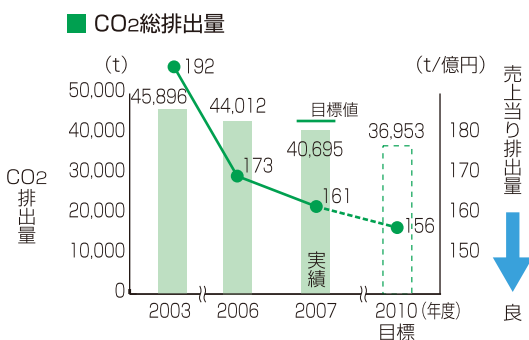
## 活動の考え方



## 2007年度の活動計画と実績

○ 成果大

目的	取り組み項目	実施内容
1. 動力設備対策	燃料転換 エア供給の効率化	○重油から電気へ（九州工場コンプレッサー） ○重油からガスへ（本社工場ボイラー） ○小型化・台数制御（細谷工場コンプレッサー）
2. 生産設備対策	工場の省エネルギー活動	○エアの使用量低減（ブロワ化、ブロー時間短縮） ○省エネパトロール、エア漏れ修理 ○運転条件の確立（大型除湿機停止） ○溶湯保持炉の電気炉への転換
3. 生産性向上	T P S活動による 生産性向上	○不良率低減（本社工場） ○寄せ止めによる効率向上（篠原工場）



## 総括

2007年度の省エネ活動は、シンプル・スリム化を基本的考え方として、技術部門・現業部門ともに展開しました。結果、CO<sub>2</sub>総排出量・原単位共に目標を達成することができました。

ハード面では、生産工程のエネルギー使用量1/2化にチャレンジし、絶え間ない活動を展開していました。ソフト面では、従業員一人ひとりの省エネ意識向上のために啓発活動を展開し、全員参加で小さな無駄も見逃さない体質づくりに取り組みました。

## 取り組み事例

### ■ アルミ溶湯保持炉の燃料転換 (本社工場：アルミダイカストライン)

アルミダイカスト工程において、手許(てもと)ガス焚き炉を、電気炉に変更しました。

- 効果
1. 加熱・廃熱発生量が少ない  
(=エネルギー損失が少ない)
  2. 溶湯が酸化しにくい(=品質向上)
- ⇒ 100t - CO<sub>2</sub>/年の低減

今後は他の保持炉への横展開を進めていきます。



ガス焚き炉



電気炉

## 2008年度の目標と重点実施項目

目的	目標	実施事項
1. 動力設備対策	CO <sub>2</sub> 総排出量 2007年度比 3%減	・各工場エア使用量 1/3ラインへのチャレンジ
2. 生産設備対策	CO <sub>2</sub> 原単位 2007年度比 1%減	・新規設備エネルギー使用量 1/2ラインへのチャレンジの継続
3. 生産性向上		・各工場と連動した「工程ごと にこだわった不良低減」

京都議定書の「2008年～2012年までに1990年度比6%減」という課題に向け、積極的に取り組んでいくため、常に高い目標を掲げ活動を展開していきます。